

▼昨年11月、オーストラリアで行われた国際大会で日本代表としてプレーする山本さん



それからはホッケーがどんどん楽しくなり「遊ぶよりもホッケーがやりたい」と思うほど、熱中して練習に取り組むようになりました。玖珂中学校ではホッケー部のキャプテンを務め、チームをまとめました。チームワークを一番大切にしてきたという山本さんは、試合の時に皆が「勝つぞ」という気持ちでプレーできる

よう、自分が一番声を出していきよう心掛けたといいます。「気持ちには引がある」という言葉が一番好きです。試合前にアップをするときも、声を出しながら気持ちも体も自分で上げていき、勝ちたいという気持ちを強く持つて試合に臨むようにしています」

ホッケーの一番の魅力は、自分のスティックの扱い方や工夫次第で、プレーの幅をいくらでも広げられるところと話す山本さん。暇さえあれば練習をして、スティックとボールを触らない日はないといいます。

自分にとつてのホッケーとは「なくてはならないもの」と話す山本さんに、今後の目標を尋ねました。「昨年の国際大会で海外の選手の戦い方や文化の違いを実際に目にして、世界の広さを感じました。これから高校3年間でもっと成長して、3年後の東京オリンピックの舞台に立ちたいです」



▲得点王を獲得した、中学生の全国大会での試合の様子



▲小学6年生の時に西日本大会で優勝、アシスト王に輝く

ドリブル、シュートと高速でボールが行き交うスピーディーな試合展開が見どころのホッケー。小・中学校と8年間ホッケーに取り組み、数々の大会で優勝・入賞を重ねてきた山本爽太郎さんはその実力が評価され、昨年16歳以下の日本代表選手の一員に選抜。11月にオーストラリアで行われた国際大会に出場し、見事3位に入賞しました。

小学1年生の時、友達に誘われたのがきっかけでホッケーを始めた山本さん。きつい練習が嫌で、やめたいと思うことも何度かあったといいます。が、厳しい練習を続けるうち、少しずつできることが増えていき面白さを感じ始めます。試合などで他県の選手とのつながりも増えたことで互いに刺激を受け合い、より頑張ろうと思うように。

小学1年生の時、友達に誘われたのがきっかけでホッケーを始めた山本さん。きつい練習が嫌で、やめたいと思うことも何度かあったといいます。が、厳しい練習を続けるうち、少しずつできることが増えていき面白さを感じ始めます。試合などで他県の選手とのつながりも増えたことで互いに刺激を受け合い、より頑張ろうと思うように。



気持ちには引がある 目指せ東京オリンピック

Vol.95

山本 爽太郎さん
(玖珂町在住)

小学1年生からホッケーを始め、昨年U-16ジュニアユース（日本中学選抜）ホッケー代表チームに選抜される。11月にオーストラリアで行われた国際大会に出場。

